

私たち日本ユニシスグループは、「ITが人と社会にできること」をスローガンに、CSR（企業の社会的責任）の活動に取り組んでいます。

日本ユニシスグループにとっての社会的責任とは、まず「本業をきちんとやること」であると考えています。当社グループの本業はITですから、ITを活用してお客さまの経営改革や効率改善を行い、それによってお客さま企業の価値向上に貢献する、それが基本です。

こうした企業活動を続けていく上で一番大切なことは、お客さまに満足していただくこと。そのためには、製品やサービスの品質を高めることが不可欠です。品質には二つの側面があり、一つは提供する製品・サービス自体の「モノ」としての品質、もう一つはそれを提供する「人」、つまり社員としての総合的なクオリティです。この二つの側面から品質の向上を図る必要があります。このうち、製品・サービスの品質向上については、先に、技術力の強化を推進する「総合技術研究所」、品質保証体制の強化に取り組む「品質保証部」の二つの専門組織を新設しました。これからは、これらを中心に、製品・サービスの一層の品質向上を図っていきます。

もう一つである「人」の品質向上については、「意欲・やる気（モチベーション）」が高いことが一つのポイントです。そのためには、まず、社員の働きやすい環境をつくること、社員の生活の向上に努めることなど、色々あると思いますが、実のところモチベーションというのは社員個々その気にならなければどうにもならない。その気になるような環境をつくることはできますが、最終的にモチベーションを向上させるのは社員個々の問題です。

そう考えると、一番大切なのは社員と経営との間の信頼関係ではないかと考えています。社員

と経営の双方がお互いを理解し、それぞれの任務と責任をきちんと果たすこと、それが重要です。それによってお互いが信頼し合えたとき、意欲もやる気も出てきます。つまり、社員のモチベーションは経営のモチベーションであり、「人」の品質は経営の品質でもあるわけです。私自身、自分に何ができるのか、そしてそれをきちんとできているのかを常に念頭に置いています。今年度の報告書では、品質向上について日頃どのように考え行動しているかという観点から、当社グループの社員の声を多数紹介しております。CSRという言葉は外国から入ってきたものですので、新しい何か、特別な何かと思われがちですが、日本の企業においては以前から優れた製品やサービスの提供、雇用の創出、税金の納付といった形で社会への貢献を果たしてきました。日常的な仕事の中で、お客さまに提供している製品やサービスをより良いものにする、少しでも品質を向上させお客さまに満足してもらう、それがすなわち社会に貢献すること、CSRにつながるはずです。

「モノ」と「人」の品質向上という地に足のついた企業活動を行うこと、それによって業績を高め株主やお客さまに満足していただき、結果として社会的に一流の企業として認知していただく、これがCSRの基本だと考えています。私たち日本ユニシスグループは、そうした視点に立って、特殊でも目新しいものでもない“普段着のCSR”をめざしていきます。

この「CSR報告書 2006」もそうした視点より、「読みやすい、分かりやすい、読んでみたい」を編集の方針としました。できるだけ多くの方にご覧いただき、私たちの基本的な姿勢をご理解いただくとともに、それに対する忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

“普段着のCSR”をめざして

日本ユニシス株式会社
代表取締役社長

萩井 勝人

